

## 杉並子育て応援券の見直しの基本的な方向性について（案）

## 1 見直しの目的

○区独自の子育て応援券について、改めて利用状況等を詳細に分析し、より使いやすい事業にするとともに、受益と負担の公平性の観点等を考慮して、必要な見直しを図る。

## 2 応援券の種類別交付・購入時期と利用可能期間（概要）

区分		妊娠期	0歳期	1歳期	2歳期	3歳期	4歳期	5歳期
		1～2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
無 償 券	(1)ゆりかご券	● → 交付 (妊娠届出時)						
	(2)出生券	● → 交付 (誕生月)						
	(3)0歳児券		● → 交付(4月)					
	(4)1歳児券			● → 交付(4月)				
	(5)2歳児券				● → 交付(4月)			
有 償 券	(6)0歳児券		● ● ● → 購入(7・11・3月)					
	(7)1歳児券			● ● ● → 購入(7・11・3月)				
	(8)2歳児券				● ● ● → 購入(7・11・3月)			
	(9)3歳児券					● ● ● → 購入(7・11・3月)		
	(10)4歳児券						● ● ● → 購入(7・11・3月)	
	(11)5歳児券							● ● ● → 購入(7・11月)

凡例  
● 交付・購入  
→ 利用可能期間

### 3 利用状況分析結果（概要）

区分	交付券種	未利用者数 /交付者数	利用者数 /交付者数	年間 平均利用額 [対利用者]	平均利用額以上 利用者数/利用者数	主な利用サービス	
無 償 券	(1) 妊娠期	ゆりかご券 (1万円)	70.5% ( — )	29.5% ( — )	7,566円 ( — )	60.4% ( — )	①子育て相談 ②産前・産後支援 ③特定施設での一時保育
	(2) 出生時	出生券 (2万円*)	62.4% (52.6%)	37.6% (47.4%)	11,774円 (9,242円)*	51.1% (43.5%)	①子育て相談 ②特定施設での一時保育 ③親も子ども楽しむ交流事業
	(3) 0歳期	0歳児券 (2万円)	18.8% (19.1%)	81.2% (80.9%)	17,140円* (17,643円)*	44.0% (45.1%)	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種
	(4) 1歳期	1歳児券 (2万円)	23.9% (22.3%)	76.1% (77.7%)	16,266円 (16,620円)	48.6% (50.8%)	①親も子ども楽しむ交流事業 ②特定施設での一時保育 ③インフルエンザ予防接種
	(5) 2歳期	2歳児券 (2万円)	19.8% (17.8%)	80.2% (82.2%)	15,829円 (15,909円)	50.4% (52.2%)	①親も子ども楽しむ交流事業 ②特定施設での一時保育 ③インフルエンザ予防接種
	0歳期・多子	0歳児多子券 (2.5万円)	15.2% ( — )	84.8% ( — )	20,317円* ( — )	45.4% ( — )	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種
	1歳期・多子	1歳児多子券 (2.5万円)	15.9% ( — )	84.1% ( — )	19,331円 ( — )	54.2% ( — )	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種
	2歳期・多子	2歳児多子券 (2.5万円)	13.6% ( — )	86.4% ( — )	17,367円 ( — )	51.2% ( — )	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種

\*:「出生券」の交付額は、平成27年度まで4万円であったため、2万円に換算し算出。

区分	交付券種	購入者数 /人口* (*翌年4/1現在)	購入者数 /無償 利用者数	有償券 利用者数	年間 平均利用額 [対利用者]	平均利用額以上 利用者数 /利用者数	主な利用サービス		
							幼稚園利用	保育園利用	
有 償 券	(6) 0歳期	0歳児有償券 (最大2万円)	26.3% (25.8%)	27.0% (29.4%)	748人 (730人)	13,611円 (13,739円)	42.9% (54.6%)	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③子育て相談	
	(7) 1歳期	1歳児有償券 (最大2万円)	28.8% (31.1%)	33.0% (37.1%)	1,300人 (1,347人)	17,168円 (16,690円)	53.5% (53.6%)	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種	
	(8) 2歳期	2歳児有償券 (最大2万円)	30.0% (34.1%)	35.2% (38.6%)	1,405人 (1,451人)	17,152円 (17,464円)	51.5% (54.2%)	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種	
	(9) 3歳期	3歳児有償券 (最大2万円)	38.0% (42.1%)		1,540人 (1,669人)	15,276円 (15,822円)	49.3% (52.4%)	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種	①親も子ども楽しむ交流事業 ②インフルエンザ予防接種 ③特定施設での一時保育
	(10) 4歳期	4歳児有償券 (最大2万円)	44.1% (46.3%)		1,903人 (1,973人)	14,899円 (15,200円)	48.6% (51.4%)	①特定施設での一時保育 ②インフルエンザ予防接種 ③親も子ども楽しむ交流事業	①親も子ども楽しむ交流事業 ②インフルエンザ予防接種 ③特定施設での一時保育
	(11) 5歳期	5歳児有償券 (最大2万円)	38.6% (39.7%)		1,939人 (1,933人)	16,741円 (16,996円)	52.2% (54.5%)	①特定施設での一時保育 ②親も子ども楽しむ交流事業 ③インフルエンザ予防接種	①親も子ども楽しむ交流事業 ②インフルエンザ予防接種 ③自宅での託児サービス

注:①平成28年度の利用状況に加え、( )内に平成25～27年度の利用状況を記載。  
②「交付年度平均利用額」は、当該年度の「利用総額」を「利用者数」で除した数値。

## 【集計結果の主なポイント】

### (1) ゆりかご券

- 交付を開始した平成 28 年度のみを集計結果とはいえ、未利用者が多いことから、今後の対応策を検討する必要がある。
- 利用者の平均利用額は、交付額（1 万円）の約 76%であることから、交付額には一定の妥当性が認められる。

### (2) 出生券

- 出生月の交付となるため、0 歳児券交付までの期間が短いケースがある。これに加え、0 歳児以上の券と比べて、出生券においては未利用者の割合が高いことから、両者の関係を整理する必要がある。

### (3) 0 歳児券、(4) 1 歳児券、(5) 2 歳児券

- 利用者数は、交付者数の概ね 80%で、利用者の平均利用額はいずれも交付額（2 万円）の概ね 80%となっている。
- 0～2 歳児多子券の利用者は、交付者数の概ね 85%で、利用者の平均利用額は、いずれも交付額（2.5 万円）の概ね 80%となっている。

### (6) 0 歳児有償券、(7) 1 歳児有償券、(8) 2 歳児有償券

- 0～2 歳児の有償券（最大 2 万円）の購入者は、各歳児の有償券利用者数の 30～35%である。

### (9) 3 歳児有償券、(10) 4 歳児有償券、(11) 5 歳児有償券

- 3～5 歳児の有償券（最大 2 万円）の購入者は、対象者（翌年 4 月 1 日現在人口）の概ね 40～45%である。

## 4 見直しの基本的な方向性

### (1) 交付額等について

- ①より使いやすくするため、出生券（無償）と0歳児券（無償）を統合し、利用状況等を踏まえた交付額等を検討する。
- ②未利用者とのバランスを考慮し、1歳児券と2歳児券の交付額等を検討する。
- ③0～5歳児の有償券について、受益と負担の公平性を図るため、①②の検討内容と併せて、交付冊数（1冊1万円×2冊限度）や、1冊当たりの購入額（1冊3千円）の見直しを検討する。

### (2) その他

- ゆりかご券の利用を促すため、引き続き平成29年度交付分の利用状況分析を行うとともに、交付者に対するアンケートを実施し、今後の対応策を検討する。